

児童朝会 校長の話 1月24日

先週の児童朝会で、世界で初めて人工的に雪の結晶を作った中谷宇吉郎さんの話をしましたね。先週6年1組の教室を通ったら、道徳の時間に「雪の写真家ベントレー」という勉強をしていました。ベントレーは、世界で初めて雪の結晶の写真を撮った人です。中谷さんが雪の結晶を作った50年位前の話です。皆さんにこの話を紹介しますね。



「アメリカの豪雪地帯にある小さな農村に生まれたウィルソン・A・ベントレーは、雪に魅せられ、生涯を雪の研究と、結晶の写真撮影に捧げた人物です」（道徳教科書6年）

ベントレーは小さい頃から雪が好きで、舞い落ちる雪をじっと見ていました。雪の結晶には同じ物は2つとしてない、と言うことを皆さんは知っていますか。そっくりに見えても水の小さな粒、分子レベルで調べると分子の配列が違うそうです。ベントレーはそのことに気が付いていました。そして雪の結晶の美しさをなんとかしてみんなにも知ってもらいたいと思っていました。

はじめ、ベントレーは結晶をスケッチしました。けれども描いているうちに溶けてしまいます。そこで顕微鏡付きのカメラがあることを知り、17才でなんとか手に入れることができました。十頭の乳牛より値段の高い、世界で一番立派なカメラでした。それから写真を撮り続けましたが、なかなか写真は撮せませんでした。そして20才の時、とうとう写真に撮す方法を見つけ、成功しました。これがベントレーが撮った写真です。





そんなベントレーを見て村の人たちは「雪なんて土と同じで、珍しくもない。写真なんかいらないよ。」と言っていました。けれどもベントレーは「世界中の人が、自分の写真を喜んでくれる日がくるだろう」と思っていました。



ベントレーが生涯で撮った雪の結晶の写真は5381枚です。そして66才で亡くなる直前に、雪の結晶の写真集が出版されました。その写真集は今でも販売されています。



雪が降りそうな寒い日が続いていますね。風邪をひかないように、健康に気を付けて生活しましょう。